

学術変革領域研究（仮称）における研究者の範囲等について（案）

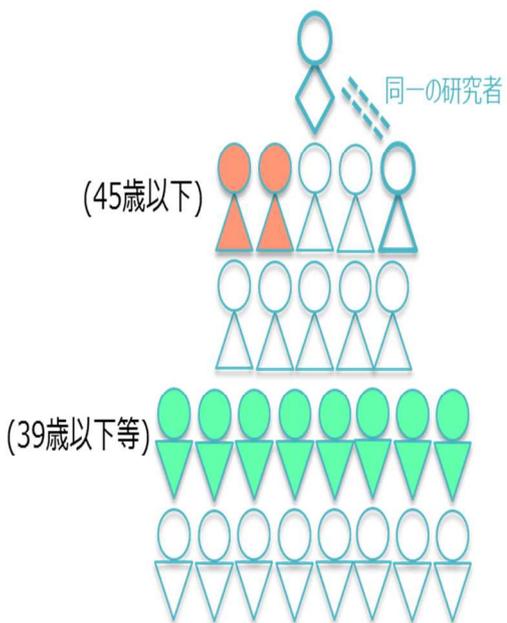
前回の研究費部会（5月22日開催）における「新学術領域研究（研究領域提案型）の見直し」に関して、学術変革領域研究（仮称）における研究者の範囲等について、御意見をいただいたところである。科研費改革に関する作業部会において改めて整理、確認など検討した事項について、以下のように取りまとめた。

（領域構成における要件）

- 領域代表者については、学術変革領域研究（A）は年齢による要件を設けない一方で、今後の新領域の発展に寄与するとともに、学術変革領域研究（A）への応募・採択を期待し、学術変革領域研究（B）は次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下）を要件とする。
 - 計画研究については、学術変革領域研究は様々な視点から新たな学術の変革を目指すものであることから、学術変革領域研究（A）、（B）ともに、次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下）を研究代表者とする計画研究（総括班を除く）が「複数含まれる構成」とする。
- 学術変革領域研究については、新学術領域研究（研究領域提案型）と同様、若手研究者の育成を目的の一つとするとともに、グループ研究として様々な視点から新たな学術の変革を目指すことを目的としている。このような点から、複数の次代の学術の担い手となる研究者の視点をもって領域を形成することが重要である。このため、審査評価を考慮すると年齢を明確にする必要があることから、次代の学術の担い手となる研究者の範囲を 45歳以下と整理する。
- なお、文章による説明だけでは、46歳以上の研究者の参画を不可能としているようなイメージを与える懸念があるため、具体的な領域構成のイメージ図を示し、領域への参画が従前と変わらず可能であることを公募要領等において周知する。
- 例えば、学術変革領域研究（B）においても、四つの計画研究で領域を構成する場合、うち二つは46歳以上の研究者が計画研究の研究代表者として応募できる。（次ページのイメージ図を参照）

(イメージ図)

学術変革領域研究 (A)



学術変革領域研究 (B)

〔総括班〕
「研究代表者」= 領域代表者

